

令和5年度帯広市民劇場賞等を受賞された皆様に今後の抱負について伺いました。



魅力に満ちあふれる
「十勝の風景」を未来に

帯広市民劇場賞
山本正広

この度は夢にも思わなかった帯広市民劇場賞を賜り感激、心より深謝申し上げます。

私は若い頃から写真と縁がある業務に携わっていました。そのうちに自分でも撮りたいという願望が募り、撮影活動を始めました。

活動フィールドは十勝。うつろう季節の中で千変万化の表情を見せる自然、厳しい冬に耐える動物たち、放射状に広がる耕地…。十勝の風景は魅力がいっぱいです。ただ撮りためた写真を見るにつけ、原風景ともいえる耕地防風林が減少し赤い屋根のサイロが消えるなど、その姿は都市風景同様に日々変化していることに気づきます。つまり写真は表現とともに記録という機能があって、今を撮ることが歴史の記録に繋がっているようにも思います。

写真は楽しいです。時には厳しい自然に拒絶されることもあります。諸先輩からみれば未熟ではありますが、これからも表現と記録にフォーカスしつつ十勝の魅力あふれる風景を撮り続け、未来に伝えてまいりたいと存じます。



絵画と、音楽

帯広市民劇場奨励賞
川崎智徳

画家・神田日勝は、「僕にとって絵を描くということは、排泄行為と同じかな。我慢できなくなったら漏らしてしまうだろう」と語っているそうです。創作活動が自分の生活に欠かせないものであるという点において、私はこの言葉に大変共感します。

でも作曲は、絵画制作とは異なり、それ自体で作品を完結させることができません。音符は、演奏者によって奏でられることで、はじめて「音楽」となるからです。ちょうど、設計図と建築物の関係のように。

この度、身に余るすばらしい賞を頂きましたが、ですからこれは、音符を音楽にしてくださった皆さんを代表して頂いたものであると受け止めています。

演奏してくださる皆さんや、聴いてくださる皆さんの耳に留まる…。見る人の眼に焼き付く日勝の絵画のように、心に残る「音楽の設計図」を五線紙に刻んでいくことができるよう、今後も精進してまいります。この度は、誠にありがとうございました。



市民手作り公演の支援、芸術文化団体や個人の育成・発掘に力を注ぎ

帯広市民劇場運営委員会
委員長
瀧川秀敏

帯広市民劇場運営委員会は、昭和38年に帯広市により設立され、昨年、創立60周年を迎えました。

今日まで帯広市、(一財)帯広市文化スポーツ振興財団のご支援と多くの運営委員のボランティア活動に支えられ、時代を反映した先駆的な取り組みに挑戦してきました。

昭和62年に発足した「帯広交響楽団」を経済的に支援する「友の会」を設立し、一貫してプロの指揮者の指導により練習する環境を整えました。平成9年には、多くの市民が出演し制作に携わった、他に類を見ない取組「第1回帯広市民オペラ

『カルメン』」は、地元文化団体関係者をはじめ行政、経済界から支援をいただき開催し、12月には7回目の公演を開催します。

また、市民オペラ同様に帯広交響楽団の演奏により「第1回帯広市民バレエ『くるみ割り人形』」を平成16年に開催し、令和5年に5回目を実施しました。

平成18年より、市内小学校へ文化講座の講師を派遣する「小学校出前講座」を開始し、これまで延べ358校1,244講座を開催し、38,402人の児童が受講しています。

これからも、帯広市民劇場運営委員会は、その時々市民ニーズを捉え、地元文化団体関係者と連携して、行政、経済界との橋渡しを行い、扇の要の役を担い、市民の芸術文化活動の後押しを積極的に展開してまいりたいと存じます。

折る開く、つながる縁

帯広市民劇場奨励賞

加藤 かおり

この度の帯広市民劇場奨励賞を受賞いたしますこと、心から感謝申し上げます。平成29年度に帯広市民劇場新人賞をいただいてから、私の活動は国内外の様々な場所での展示機会と、プロフェッショナルな方々との出会いに恵まれました。

私の作品は、紙を幾何学的に折り込み立体的に組み上げる造形で、その時その場所の空間に合わせて構成していく「サイト・スペシフィックアート」と呼ばれる表現です。今後も、今までの多くのご縁に思いを寄せながら、素材と空間にじっくりと向き合い、一つ一つの作品作りを大事にチャレンジし続けたいと思っております。

今回再び、このような受賞の栄誉をいただくことができましたのは、日ごろから私の活動を理解し、応援して下さる恩師や友人をはじめ、何よりも健康な身体に産み育て、いつでも支えてくれた両親のお陰と感謝しております。



令和5年度の事業計画

- 第42回おびひろ市民芸術祭 (2023.4.27~5.16)
- 小学校出前講座 (2023.8~2024.2)
- 出前講座夏休み特別講座「太鼓を打ってみよう」 (2023.7.26)
- 出前講座夏休み特別講座「迷路を作ろう」 (2023.7.28)
- 出前講座夏休み特別講座「ジャンボ書道」 (2023.8.13)
- 出前講座冬休み特別講座「マジックを楽しもう」 (2024.1.5)
- 出前講座冬休み特別講座「書き初め」 (2024.1.11)
- 令和6年文化団体及び関係者新年交礼会 (2024.2.7)
- 帯広市民劇場賞の贈呈 (2024.2.7)
- 第19回邦楽邦舞ワークショップ (2024.2.4~2.25)
- 第19回新人演奏会 (2024.3.20)
- 広報紙の発行、HP運用

※詳細につきましては市民劇場HPにて掲載

感謝



帯広市民劇場新人賞

大池 ひとみ

この度は、帯広市民劇場新人賞を賜り心より感謝申し上げます。

わたしの創作は、自然と触れ合う中から生まれます。白い紙に向かってうんうん考えていても出てこないのです。自然というのも、帯広の川や森や畑が原点にあります。足元に転がっている石が、寝転んだときの光や匂いが、わたしを感謝と喜びの波に包みます。

それはとても近くて狭い範囲の自然かもしれませんが、わたしの心身を豊に育ててくれました。そんな環境のある帯広の町がとても好きです。今日もフクロウが飛んでいく後ろ姿を見ました。これから生まれてくる次の世代の子供たちにも、帯広でたくさん遊び育てて欲しいなと思います。

脈々とつながるご縁に生かされています。いつも協力や応援をしてくださっている方々に改めてお礼を申し上げます。

これからも自然を愛し感謝を忘れず、自由に作り続けようと思います。

この度は、誠にありがとうございました。

略年表

- 1963 帯広市民劇場発足記念フェスティバル
 - 1985 ミレーとバルビゾンの森の画家たち展
 - 1989 第1回おびひろ薪能
 - 1991 第1回新人演奏会 (現在まで18回実施)
 - 1995 第1回北の構図展 (現在まで15回実施)
 - 1997 第1回帯広市民オペラ (現在まで6回実施)
 - 2004 第1回帯広市民バレエ (現在まで5回実施)
 - 2005 第1回邦楽邦舞WS (現在まで18回実施)
 - 2006 小学校出前講座 (現在まで18回実施)
 - 2008 第1回ふるさと公演 (現在まで8回実施)
 - 2017 北の輝き vol.1 (現在まで3回実施)
 - 2022 帯広市民劇場創立60周年記念
「十勝の大地を生きるアーティスト展」
第1回未来につなぐアーティストー北の構図展
- ※現在までに940回の公演を開催しております。